

PICKUP! 卒業生特集



鍼灸マッサージ科1期生
川岸 直生さん

卒業後、治療院に勤務。昨年リオデジャネイロオリンピック女子200m平泳ぎで、日本にとって24年ぶりの金メダルを獲得した金藤理絵さんのトレーナーとしても活動されていました。

・仕事のやりがいについて

卒業してまず接骨院に勤めました。呉竹で経絡治療など武器になるものを身に付けて卒業できたのは大きかったと思います。習熟することは難しいかも知れませんが、普通なら学べないようなことも実践できる環境があるというのはやはりこの学校の強みかと思います。

やりがいというか、精神的に疲れが溜まってきた時に「先生良くなりました」と言ってもらえる瞬間はやって良かったと感じますし、自分もさらに頑張らなくてはという気持ちが湧いてきます。

・トレーナーとしての活動はいつから始められたのですか？

最初に就職した治療院でやらせて下さいとお願いして、実際にスポーツ選手のケアなども取り入れてもらったのですが、下地として実は呉竹に通っている頃から母校である東海大学で選手のトレーニングケアのボランティアをしていました。そういう縁もあって資格修得後にも大会などがあれば母校のお手伝いをしていたのですが、2013年の日本選手権でたまたま金藤理絵選手をみることになりまして、そこで理絵が優勝したことから彼女のトレーナーとしての付き合いも始まりました。

その後は治療院に来てもらったり、一緒にトレーニングをしたり。そうこうしているうちに2016年のオリンピック出場が決まって、メンタル面のサポートや、スタッフとしてアメリカまで行ったりもしました。

・トレーナーとして気をつけていることは何ですか？

自分が触って感じるものと選手が感じているものは違うので、まず話を聞きます。そこから次の練習に間に合うようにケアをする。ストレッチなどもするし学校で得た知識も使う。何が必要で何がいらぬなどは僕の中ではあまり決めていなくて、必要なものを判断して使っていきます。

僕がイメージとして思っているのは、この仕事は誰かを影で支えていくものだということです。結果が出るのは選手やコーチが努力しているからで、僕たちが前に出る必要は無い。それは治療においても同じで、患者さんの元々持っている回復力に僕らが方向付けをしてあげて、あとは患者さんが自分の力で治すんです。

治すのは患者さんだし、結果を出すのは選手だし、僕らはそれをお手伝いできればいいのかなと。それで選手なら感動を、患者さんなら良くなったという嬉しさを分けて貰えばいいし、そう言うことがやりがいに繋がっていきます。

・今後の目標は

現在は独立なども考えて様々な準備をしています。

卒業した頃はそこまで考えていなかったけど、この業界がどうなっていくかは誰にも分からないですね。いつか放り出されたその時に準備を始めるよりも、苦しいこともあるかも知れないけど今取り組み始めた方がいいと思うんです。十年後の自分を考えた時に、結果としてどうあれそうやって歩く十年の方が、これからに繋がるんじゃないかと。

もちろん開業が目標ではなくて、十年後も二十年後も自分が現役でやっていきたいので、トレーナーとしても施術者としても続けられる形を目指したいし、今の患者さんとの繋がりも大事にしていきたいですね。

・後輩に対して一言

僕も何かの本で読んだのですが、満足するというのは大事だと思います。

例えば患者さんとかお客様に対しても、ありがとうと言われてそれで満足して終わりではなく、もっと良い結果を出せるように頑張る気持ちを持つということです。

こういう職業を選んだ時点で自分の道を歩き始めているので、足を止めて欲しくないし、現状維持ではなくもっと上を目指して欲しいと思います。



くれたけ

発行所
呉竹医療専門学校
呉竹会
事務局
平成29年
4月発行

OB 訪問①

鍼灸科Ⅱ部3期生
小林絵梨子さん
elli 鍼灸治療代表



・職場の特徴

日本橋のオフィス街にある女性専用の完全予約制の治療院で、30代～60代中心の女性が仕事帰りにリラックスやお肌のケア、健康や美容、不定愁訴の治療やケアを気軽にできる場所を作りたいと思い2015年からオープンいたしました。

・仕事の内容

人形町にあるエステサロンや、中央区近郊のオフィスや、お住まいの患者様に出張治療を行っています。日本橋の治療院はベット2台までおけますが、基本1台で一人でマイペースに治療を行っています。オフィス街という場所柄、平日の夜が忙しいです。

エステティック協会にてエステティシャンを指導する立場である上級エステの資格も持っているため、エステ教室を介護や医療従事者向けに行うこともあります。

・この仕事を目指したきっかけ

10年間銀座や原宿で社員の経験があり、東京で働く女性が喜ぶことがしたいと思っていました。転職のきっかけは、父の癌の再発から、健康の大切さを実感し、医療の勉強をしたいと考えたからでした。呉竹医療専門学校で学んでいく中で、医学の知識とともに、医療人としての在り方も学ばせていただき、毎日の生活でのケアが基本であり、鍼灸によるケアが女性の健康維持の一助になればと考えています。

・やりがいなど

患者さんが望む治療効果が出るかと私への信用がついてくるので、頼っていただける症状や人間関係が広がっていくので嬉しく思います。患者さんの笑顔と、前向きな目標をもって患者さんとお話できるときに、一生懸命治療してよかった、人生に関わることができてよかったと感じます。

・将来の目標

働く女性、育児している女性、更年期や老年期の女性。

様々なシーンで出てくる症状、メンタルヘルスケアに東洋医学の利用価値を知ってもらい、たくさんの方に役立ててもらいたいです。疲れたり、沈んだり、わけもなく悲しくなったり、心の浮き沈みは体調が大きく関与しており、東洋医学の力をかりてケアしていけば、心身ともに健康でいられるので、女性が元気に活躍できる健康な社会や家庭の礎を作れるのでは考えています。そのために、私ができることは、ワークショップなどで東洋医学を体験してもらうこと、鍼灸院にこない人にも東洋医学が良いものだとかわかってもらえるように普及活動を行うこと、日々の臨床の発見や、先人の偉人の先生方々の研究を引き継ぎ、勉強し、研究をおこなうことを目標として、活動していきたいと考えています。



OB 訪問②

柔道整復科Ⅰ部5期生
松村 直さん
はっとり鍼灸接骨院勤務



・職場の特徴

駅から近い為、会社帰りの方が来院されることが多い。学生(中学生・高校生)の患者様が一番多い。そのため、慢性的なものより急性外傷をみることが多いです。

・仕事の内容

受付全般、院の雑用全般、手技療法(問診はまだとっていません)

・この仕事を目指したきっかけ

高校までずっとサッカーをやっていて、その間にケガも多く接骨院によく通っていました。そのとき先生の施術をみてこの職業に興味を持ち、自分でもケガをしてきた人を治したいと思いこの道に進みました。

・やりがいなど

やりがいは施術した後に患者様から良くなったと言ってもらえたときと、自分の仕事が増えたことです。

逆に自分の仕事の進み具合、以前とは違う生活リズム、などには苦労しています。

・将来の目標

目標は開業。どの年齢層の方でも対応できるように来院しやすいような接骨院を作りたいです。

第六回呉竹祭報告



利益率上位三クラス

本科二年二組 やきとり
 専科II部一年 イタリアンピザ
 専科I部二年 鳥賊焼き

今年のクラスイベント利益率の上位は次のようになりました。例年通り飲食店が多く、その中でも接遇が良く呉竹会会長賞を受賞した本科二年二組が売上げでも上位に入りました。専科II部一年のイタリアンピザは室内飲食ながらもしっかりと食べられるのが好まれたのか屋外を上回る利率を出し、一方で屋外の中でも特に香ばしい薫りを出していた鳥賊焼きも負けじと高い利率で上位に食い込んでいました。

「クラスイベント結果」

今年から設けられた呉竹会会長賞は、鍼灸マッサージ科二年二組が受賞しました。接遇のすばらしさが受賞の決め手になったようです。おめでとうございます！
 そして・・・毎年呉竹祭最後を大いに盛り上げてくれる「白衣コンテスト」！
 学生も一番気になるこの企画。今年の白衣コンテストの最後には素敵なサプライズもあり、終了後は心がほっと温かく、幸せな気持ちに包まれました。
 優勝クラスは、圧倒的投票数で「I部鍼灸科三年生」でした。

呉竹メディカルクリニックスタッフによる「健康教室」も開催。ロコモティブシンドローム・メタボリックシンドロームについて、健康体操などをおこないました。
 今年から設けられた呉竹会会長賞は、鍼灸マッサージ科二年二組が受賞しました。接遇のすばらしさが受賞の決め手になったようです。おめでとうございます！

平成二十八年十月十六日(日)に、第六回呉竹祭を開催しました。当日は、開催を待ち望んでいたかのように、気持ちのよい秋晴れとなり、来場者も二百十名を超え近隣の方々、学生のご家族・ご友人、受験者の方など多くの方にお越しいただきました。
 チャリティーあん摩マッサージ指圧では予約の際は列ができるほど大盛況！たくさんの方に施術を受けていただきました。集まった募金42,321円は、日本赤十字社を通じて熊本地震災義援金とさせていただきます。
 恒例となりました埼玉県鍼灸師会協力は、きゅう無料体験には、昨年よりも多い百七十五名の方がご参加されました。

呉竹祭取材班が選ぶイチオシイベント！①

今回の呉竹祭で取材班が見つけたイチオシのイベントを、スタッフインタビューと共に紹介します！

《I部鍼灸科3年『呉竹リサイクル堂』》

内容：リサイクルショップ



☆スタッフからのコメント☆

クラス内で売るものを持ち寄ったのですが、思った以上に多彩な商品が集まりました。価格も抑えめなのがアピールポイントです。飲食店と比べると静かなので、儲けの面ではやはり厳しい気がします。

☆取材班の感想☆

装飾がとても綺麗で目を惹かれました！人数の少ないクラスなのですが、お互いにフォローして頑張っている様子が良かったと思います。

呉竹祭取材班が選ぶイチオシイベント！②

《I部柔整科3年2組『お好み焼き KURE』》

内容：お好み焼き販売



☆スタッフからのコメント☆

味には自信があります！お客さんが美味しいと言ってくれたことがとっても嬉しかったです。美味しいお好み焼きをぜひ食べに来て下さい。

老若男女様々なお客さんが見えられますが、呉竹祭を楽しんで下さっている様子でした。

☆取材班の感想☆

みんな笑顔で楽しそうにお好み焼き販売をしていました。和気藹々としていて、イベントとしてとても良い雰囲気だと思いました。

《5階 白衣コンテスト》



☆取材班より☆

どのクラスも白衣コンテストを楽しんでいるのが伝わってきた。笑いあり感動ありで、とても白熱しました。

最後のサプライズは今まででも一番の盛り上がりで、白衣コンテストの伝説に残るものだったと思います。

《チャリティーあん摩マッサージ指圧&埼玉県鍼灸師会主催はり・きゅう無料体験コーナー》



☆取材班より☆

チャリマはとて沢山の方が受けていて、全体的には年配の男性やカップル・夫婦で受けられる方が多いように見えました。

普段と違いベッドの上での施術ではないので、患者様がどう感じているのか、改めて気になる部分でした。ただ、室内が暗めでリラックスして受けられる雰囲気作りがされていたので、気持ちよく受けて頂けたのではないかと思います。

鍼灸無料体験は師会の先生方が1対1での親身な対応をされているのが印象に残りました。

鍼灸の方を受けているのは女性が多く、鍼灸に興味ある人はもちろんですが、初めて鍼灸を受けた方もいたようで、そういった方も「不安があったが体験して良かった」という高評価が多かったです。

意外に余裕があったので、もっと沢山の方が受けてくれると良いのにとおもいました。



【スポーツ大会報告】

平成 28 年 5 月 31 日 (火) に大宮体育館にて呉竹医療専門学校第 7 回スポーツ大会を開催しました！

今年もバスケットボールとソフトバレーボールのクラス対抗試合が行われ、白熱した試合が展開されました。

両科入り乱れての対抗戦の他、エキシビジョンマッチも開催され、大いに盛り上がる一日となりました。



【医学会報告】

平成 28 年 10 月 21 日 (金) 呉竹鍼灸柔整専門学校 (横浜校) にて、第 28 回呉竹医学学術大会が開催された。平成元年に本学術大会が初開催されてから、28 年の歴史を積み上げることとなった。特別講演、教育講演、実技セッション、一般口演、症例報告会、分科会の 6 部構成にて、延べ 50 演題の発表があった。これは東京都北区北とぴあで開催された 28 年度の東洋療法学校協会主催の学術大会の演題を上回る数だった。

呉竹医療専門学校より、本専科、柔道整復科に在籍する過半数を超える 245 人の在校生が参加した。各学術発表の聴講及び実技セッションの見学に有意義な時間を過ごす事が出来た。上海研修で共にした横浜・東京校の仲間との再会に睦み合えたりする機会を得られたという声を耳にした。普段の学校を離れた刺激が、学生にとっても新鮮な体験だったものと感じられた。本学会の学生研究を通じた知識の深掘りやプレゼンテーションの工夫が、将来の臨床の現場に生かされる下地となる様、今後も継続すべき重要なイベントであると考え、更なる発展に教職員として参加したいと考える。

(鍼灸科 西岡岳之)

【医学会プログラム】

【学術大会特別講演】

『健康長寿と自然からの恵み～神経・免疫系への作用～』
山田 陽城 先生 (東京薬科大学薬学部特任教授・北里大学名誉教授)

【教育講演】

『鍼メーカーの営業マンから見た鍼灸院の市場報告』
石郷岡 信 先生 (セイリン株式会社)

『治療の差別化を図る物理療法について～接骨院・整骨院の現状と自費診療の必要性～』
村山 大樹 先生 (伊藤超短波株式会社)

【実技セッション】

『筋・関節コンディショニングの実践～ストレッチの臨床応用～』
山下貴士先生 (神奈川大学水泳部 非常勤講師)

『操体法による速効骨盤調整』
金子徹先生 (たまプラザ鍼灸院 総院長)

『マタニティ鍼灸 ～母と子をいたわりつなげる～』
藤原亜季先生 (天使のたまごグループ代表)

『熱可塑性キャスト材 (ブライント 100) を用いたシンスプリントに対する装具療法～診察から後療法まで～』
深澤 晃盛先生 (野島整骨院 チーフ)



一般口演、症例報告会、分科会では卒業生や在校生等からの発表もありました。

平成 28 年度上海研修の流れ

1 日目 7 月 31 日

8:45、成田空港第 2 ターミナル北集合。
中国東方航空 272 便に搭乗。
上海に到着後上海ディズニーランドの周辺を散策。

2 日目 8 月 1 日

本日より実習開始。
7:30 に大学と病院に向けて出発。解剖はレクチャー後、皮膚剥離を始めた。
4:30 に大学出発。
6:00 から 7:30 まで歓迎会。

3 日目 8 月 2 日

7:30 集合。
総合コースは岳陽病院へ。午前中は見学実習。午後は推拿基礎実習。
解剖コースは大学に向かい、背部皮膚剥離。それぞれ各部位を剖出した。
5:00 にホテル到着、その後市内観光。

4 日目 8 月 3 日

7:30 集合。
総合コースは鍼灸基本実技の講義 (中国針・灸頭針・吸い玉)
解剖コースは上肢下肢の背面の筋学。
17:30 夕食後、18:45 から雑技団観劇。

5 日目 8 月 4 日

8:00 大学着。
解剖コースは昨日の復習と腹部、胸部臓器。腹部筋と鼠径部を剖出学習したのち、午前は腹部臓器の剖出、午後は解説と胸部臓器の剖出、解説。
夜は博物館見学

6 日目 8 月 5 日

8:00 大学着。
実習最終日で解剖コースは関節、脳、脊髄。
総合コースも筋肉モデル・内臓モデル・骨格標本などで学習していた。
昼食後に解剖経穴博物館見学。
すべてのカリキュラムを終了。
夜は送迎会。

7 日目 8 月 6 日

空港 9:40 着
12:00 に出発、成田着 15:55

最後に、

今回も引率の任務を仰せつかり大変ありがたいことでした。解剖実習はご献体ごとに状態が異なるので大変な勉強と経験になります。学生とシェアした写真などを授業で用いて、解剖に対する理解を深めて行けるようにいたします。また、国際交流に貢献できるようさらなる努力をしてみたいです。今後共よろしく願います。

(鍼灸科科長補佐 坂本収司)



『上海研修をおえて』

鍼灸マッサージ科二年一組 新井 薫
鍼灸マッサージ科二年二組 千葉真琴

今年度の上海研修は大宮校からは本科 2 年の私たち 2 人だけの参加でした。他校の方たちと仲良くなれるか、研修内容についていけるかと不安と期待の入り混じった参加となりました。後半の御献体を触らせていただきながらの解剖は、一年生の時に習った解剖と経穴を織り交ぜて丁寧に教えて下さり、復習にも臨床での参考にもなり大変勉強になりました。

大学での講義と病院見学では、本場の技術と現状を知ることが出来て、これからの方向性を考える大きなきっかけとなりました。鍼灸の奥深さを改めて感じ、まだスタートラインにもたっていないことを痛感しましたが、今回の貴重な体験を未来に生かして益々頑張らなければならないと思う一週間となりました。研修に携わって下さった先生方、スタッフの方々に感謝申し上げます。

第二十八回上海中医薬大学短期留学



【総会・同窓会開催報告】

平成二十八年四月十七日(日)に、本校十階にて第四回呉竹会総会を開催しました！

総会では理事により呉竹会の活動について事業報告、決算報告などが行われ、総会終了後は一般教養講座として、小野敬好先生から「伝統的な日本語」というテーマで講義をいただきました。

その後、十七時からパレスホテル大宮に会場を移し、同窓会が行われました。今回は初めてのホテルでの開催ということになりましたが、直前に参加される方などもおり最終的に約百名の会員の皆様が集まって旧友との親交を温めました。二時間という短い時間ながらも大いに盛り上がりを見せ、終了後も名残を惜しんでいる姿が多く見られました。

今回の総会・同窓会は六月十八日の開催ですので、ぜひご参加ください。

第五回総会・同窓会案内

呉竹医療専門学校呉竹会の第五回総会及び同窓会を開催します。参加希望の方は別途お送り致しますご案内、または本校ホームページにて申込み内容をご確認の上、お申込ください。

なお、会場予約の都合上、お申込後キャンセルされる場合は、お早めにご連絡頂きますようお願い致します。

開催日

平成二十九年六月十八日(日)

【呉竹会総会】

会場：呉竹医療専門学校

【同窓会】(会費制)

会場：パレスホテル大宮

【平成二十八年年度公開講座】

呉竹会主催呉竹医療専門学校公開講座を、平成二十八年年度に開催しました。

今年度の公開講座は四名の先生をお招きして計四回の講座を開講し、三日間で百七十四名の卒業生・在校生・各種関係者の皆様にお越し頂きました。

(鍼灸科教員 武井良之)

第一回・第二回公開講座開催報告

十一月六日に呉竹会主催平成二十八年年度公開講座が開かれました。

今回は「医療現場における感染症対策『HIV看護』として」と「一次性頭痛に対する鍼治療効果」という二演題をテーマに授業では触れる事が難しい医療現場の実際を紹介していただきました。

池田和子先生のご講義では国内随一の感染症研究や医療を施されている国立開発研究法人国立国際医療研究センター病院のコーディネーターナースの見地から感染症患者を取り巻く偏見や差別を始め、治療法、予防としての感染症対策についてお話しいただきました。世界三大感染症の一つであるAIDS患者とHIV感染者との違い、現在は治療が行える疾病である事、感染率は0.5%ととても低く、かつ感染経路は明確である為正しい予防が効果的であるという事を教えてくださいました。私達が普段から学校で学生と共に実践しているスタンダードプリコーションの考えは非常に有効であるとの再確認ができ、素晴らしい講義でした。

続いての講義は埼玉医科大学東洋医学科専任教員でおられる菊池友和先生による「一次性頭痛に対する鍼治療効果」のお話でした。

授業として学生に伝える内容を更に臨床の現場に則した内容に深めていただき、頭痛の分類、発生要因、私達が頭痛の患者に施術を行う為に気を付けなければならない無け一次性頭痛と二次性頭痛との鑑別を明確に示してくださいました。実技供覧には参加した学生たちも、高度な内容の講義のなかでエビデンスのある鍼灸実技を大変注目していました。また、大学病院という医療の最前線の医師達から求められている鍼灸師のスキルを示して下さり、チーム医療の一環として鍼灸

が担える可能性を強く感じました。私も学生達と深く学んで行きたいと思

います。

学生達の可能性を広げてくださった池田先生、菊池先生と企画・進行を引き受けて下さった呉竹会理事山岸先生に御礼申し上げます。

第三回公開講座開催報告

平成二十八年十二月四日に呉竹医療専門学校平成二十八年年度第二回公開講座が開催されました。

今回は昨年度大盛況だった竹井真澄先生に再度お越しいただき「病気になるない体づくりBody」としてご講義をしていただきました。

農学博士・栄養学博士の竹井先生はオリンピック選手やサッカー日本代表選手、プロ野球選手等数多くのスポーツ選手に栄養指導を行っています。またあのフランス・パストール研究所で研究員としても活躍されている先生のお話を聞くと、会場は七十名以上の卒業生や在校生が集まり、座席を補充するほどの動員に熱気に包まれていました。

昨年度以上の参加者の中、今年度も栄養学の観点から予防医学に通ずるお話をしていたいただきました。

日本人の生活には独自の食文化があり、それが病気の予防につながっていたという、目からウロコなお話でした。私たちが知っている食品がヒトの体を作るうえで、どのように組み合わせることが最善か、また、どの組み合わせが好ましくないのか、受講者が将来多くの患者やアスリートに生活指導を行う際に有効な情報を提供してくださいました。

昨年、今回と貴重な講義をしてくださった竹井先生はもちろん、企画から進行まで多大なご尽力をいただきました呉竹会理事、城内先生に心から御礼申し上げます。

(鍼灸科教員 武井良之)

第四回公開講座開催報告

去る一月二十二日に呉竹会主催平成二十八年年度第四回公開講座が開催されました。

今回は「柔道整復とスポーツ」をテーマに日々の接骨院業務の中でスポーツ外傷を設けています藤井接骨院藤井英之先生にご講演いただきました。

スポーツというテーマの枠組みの中で、前半はメディカルチェックに欠かせないフォームと重心の関係をお話いただきました。日頃何気ない姿勢にも重心が

あり、重心の移動によって体を使いやすくなり、逆に使いにくくしたりと実際に体を動かして体験することでより分かりやすく学ぶことができました。

また事例を元に姿勢から考えられる疾患や外傷など、会場とディスカッション形式で行い、有資格者の様々な意見と実際の診察の視点を学生は刺激を受けたのではないかと思います。

後半は下肢へのテーピングアプローチとして足に悩みをもつ学生に立位・歩行時の問題点の見方、改善のテーピング法をご紹介くださいました。下肢から全身をみる手法や足関節だけでなく距離関節、距骨下関節などマクロな視点からのアプローチをするために、膨大な知識と思考能力、そして経験の大切さを改めて実感致しました。

授業では触れる事が難しい医療現場の実際をご紹介いただき、スポーツの分野で活躍したいと希望しつつも目標が定まっていないう学生にとり、明確な道標になったのではないかと感じます。

学生達の可能性を広げてくださった藤井英之先生と、企画・進行を引き受けて下さった呉竹会理事 城内先生に深く御礼申し上げます。

(柔道整復科教員 荷田翼)

【鍼灸科教員研修会 報告】

平成二十八年年度八月二日・三日に大阪ガーデンパレスにて東洋療法学校協会第四十回教員研修会が開催され、本校から細野校長先生、小川科長、山科科長補佐、坂本辰徳先生、川畑先生、福本先生、武井の八名が参加しました。

第四十回の全体テーマは「あはき教育の現状と課題、夢、未来」として、あはき教育のこれからについて展望や目標を考察しました。

初日の特別講演は市民公開講座として「超高齢社会における東洋医学の役割」をテーマに明治国際医療大学特任教授矢野忠先生のお話を聞きました。

二日目の教育講演では、「学生をアクティブにする授業ーパラダイムシフトを授業に反映させるー」をテーマに、学生の学修力向上の一つの取組として近年教育界で注目されているActive Learningについて、その分野のスペシャリストであられる関西大学教授 三浦真琴先生に専門学校における教授学習活動のありようをご教示いただきました。

また両日のパネルディスカッションでは、勤続十年以内の若手教員が壇上にあがり、初日のパネルディスカッションIでは「どんな医療人を育てるのか!?」現状と課題」をテーマに、二日目のパネルディスカッションIIは、「あはき教育の夢、そして未来」をテーマに、若手教員の視点から専門学校の未来像や教育のあり方を語って頂きました。同時に、フロアの経験豊富な先生方からもご発言があり、活発な議論が繰り広げられました。壇上の先生方の理想や悩みは私も共感できる点も多く、またフロアの先生のご意見は大変勉強となりました。

超高齢少子化社会におけるあはき教育のあり方と未来への責任を深く考えられる二日間となりました。

(鍼灸科教員 武井良之)

【平成二十八年年度 柔道整復科教員研修会 大阪】

私たち柔道整復科教員は、八月二十二・二十三日の二日間にわたり大阪・心斎橋で開催された柔道整復学校協会主催の教員研修会に参加してきました。



第一日目はアメリカからお招きしたDr. Hal Townsend(大の日本びいき)による講演「柔道整復師と整形外科医療スタッフとの共同体制について」アスリートの体調管理に対するチーム医療と、整形外科医の展望」、また本校の細野昇校長先生による「機能訓練指導員養成テキスト」について、や、大阪音楽大学・藤本敦夫教授(ジョン・レノン似)による「学生分析に基づく初年次教育の在り方」をはじめとする分科会を。続く二日目には武庫川女子大学・北口勝也教授による「学生のやる気をひきだす行動心理学」と、朝日医療大学校学園長・三浦孝仁先生の「柔道整復ブレインの生い立ちとプロフェッショナル」の二講演を拝聴しました。初日、関東に接近してきた季節はずれの台風九号に背中を押されように西を目指した我々でしたが、大阪滞在中は好天に恵まれました。会場の近くには欧陽菲菲(オーヤン・フィフイ)の歌で有名な御堂筋が走っていました。研修後は「雨の御堂筋」ならぬ「晴れの御堂筋」を皆で散策する充実の二日間となりました。

(柔道整復科教員 奥脇栄治)(公社) 埼玉県柔道整復師会
五月二十九日(日)に深谷ビッグホールで、第三十九回公益社団法人埼玉県柔道整復師会柔道大会が開催されました。

男子は柔整学校対抗試合(団体戦)に出場し見事優勝!四連覇を達成しました!
女子は個人戦が開催されました。試合結果は次の通りです。

優勝 I部柔道整復科一年 佐藤遥菜
二位 I部柔道整復科二年 小澤敬子
三位 I部柔道整復科三年 堀内未来



が優勝、中島温子さん(柔道整復科三年)が二位入賞という素晴らしい成績をおさめました。

全国柔道整復学校協会
八月十七日(水)に東京武道館にて第四十九回(公社)全国柔道整復学校柔道大会が開催され、本校より男子七名・女子五名の学生が参加しました。結果は次の通りです。



学生からは一般男子の部で田嶋秀嘉さん(鍼灸マッサージ科二年)が三位、一般女子の部で佐藤遥菜さん(柔道整復科一年)が三位入賞という素晴らしい成績をおさめました。

七月二十四日(日)さいたま市大宮武道館にてさいたま市青少年柔道選手権北部地区大会(個人戦)が開催され、呉竹道場より四名のキッズと学生達が参加しました。小学四年生の部で石蔵結士くん・中学一年生の部で今松天夢くんの二名が三位入賞!



男女ともに最高の結果を得られ、今後への希望とみとなりました。休日にもかかわらず応援にきてくださった卒業生の先輩方、ありがとうございました。

さいたま市青少年柔道選手権 北部地区大会

平成 27 年度卒業生進路状況 (6月10日時点)

就職者数 129名 就職率(就職希望者に対する) 90.2%

就職先(抜粋)

株式会社三喜堂、株式会社アールはっとりはりきゅう接骨院、げんき堂整骨院、大和田整形外科、北本整形外科、有限会社アートルライフ、やましろ接骨院・鍼灸院、株式会社ケツズトレーナー、M2トレーナーさとう治療院、銀座ハッチ、おひさま整骨院、くまのみ整骨院、オレンジはりきゅう整骨院、他

附属施術所研修生近況報告

鍼灸科Ⅱ部卒業 研修一年目 寺崎育子さん



●研修を始めたきっかけ
ピラティスインストラクターとして働く中で運動だけでなく、治療的アプローチをしたいと思い鍼灸師を目指しました。
資格を取った後、研修を始めたのは、授業でどれだけ想定してもやはり想定でしかないのが、臨床の現場をしっかりと学びたいと思ったからです。ここはクリニックも併設されており、クリニックとの連携がとれるという方向性も惹かれました。

●研修を始めてみて

現在まだ1年目ですが、やりがいを感じています。色々と学べますし、クリニックが近くにあるという安心感もあります。2年目も継続して続ける予定です。

患者様1人ずつにじっくり取り組める環境なので、それぞれの疾患に対してスタッフルームで本を読んで紐解く時間が貰えたり、その場で先生にも聞けるので、しっかりとした対処が出来ます。

まだ期間は短いですが、定期的に見させていただいている患者さんもいて、良くなった、楽になったと言って貰えると凄く嬉しいです。

他の研修生もとても真剣に取り組んでいて、他の現場の話を聞くことも出来ます。情報交換できるというのも良いところです。

研修の日は9時に開けて9時40分に患者さんを迎えて、19時45分に終わります。先生や先輩方のご指導のおかげで辛いと思うことはなく、充実した時間が過ごせています。貴重な時間なのでこの時間は確保したいなと思っています。

●今後の目標

ピラティスと鍼灸の両方を生かした形で開業するのが目標です。治療家としては患者さんが話してくれる様々なことにもっと応えていきたいと思いますが、そのためにはまずは、限られた時間の中でポイントをおさえて施術等行えるようになりたいです。

鍼灸科Ⅰ部卒業 研修二年目 深井梓さん



●研修を始めたきっかけ
以前働いていたときに身体に負担がかかることが多く、手が腱鞘炎になり、その時鍼を受けて楽になった経験から鍼灸師に興味を持ち、この学校に入学しました。

地元長野で開業したいという思いが強くある一方で卒業した時点ではまだ不安もありました。運動器疾患についてもっとしっかりと勉強したいと思っていたところ、先生にも勧められて研修を始めました。

●研修を始めてみて

実際二年間やってみて長野から通っていることもあり辛く感じることもありましたが、多くの患者さんと接することができ、充実しております。しかし、思った以上に自分の力だけでは厳しくて、両親はもちろん先生方に色々と助けて貰いながらここまで来たので、とても感謝しています。

他の場所でも研修をしているのですがここで今まで勉強してきたことが色々役に立っていて、分かることが増えてきたので患者さんに物怖じしなくなってきたというのを感じています。

初めは運動器疾患だけでしたが、今は内科的疾患の患者さんを見るようになり、大分幅も広がってきました。

カルテ書きも初めは大変で1日1つという感じだったのですが、先生に色々とポイントを教えて貰って今は大分早く書けるようになりました。

●今後の目標

目標は変わらず、いつか地元で開業したいです。

●コメント

学校では国家試験を受けるための勉強をしますが、治療者としての勉強ができるのが施術所です。先生ともフランクに話せるので分からない事も聞けます。私は施術所で勉強することが出来て良かったと思っています。時間等で都合がつく方は少ないのかもしれませんが、やった分だけ価値があると思います。

施術所は衛生的で整理整頓されており、開業時や他の治療院に勤めるときには大いに役立つと思います。

山岳同好会

主な活動

登山中の応急処置について学び安全な登山活動を目的とする。
清掃登山を心がけ環境保全活動を行う。

活動内容

- ・近郊のハイキング、登山
- ・夏合宿・日本百名山登山 焼岳登山及び上高地にてキャンプ
- ・ゲレンデクライミング



同好会活動報告

フットサル同好会

主な活動

公共施設にてフットサルを行う。在籍学科、学年、性別を問わず在校生より会員を募り、スポーツを通じて親睦を深める。

活動内容

年に4~5回学校近くのフットサルコートまたは体育館を借りて、柔整科、鍼灸科、教員で仲良く楽しく活動しています。

天晴れの会

主な活動

臨床現場を想定した本格的な実技実習や校長先生の講義

活動内容

運動器疾患に対する徒手検査法や臨床で遭遇する外傷の処置を実践することを目的としている。具体的な内容としては「前十字靭帯損傷で行うラックマンテストの実際」「膝蓋骨折に対する固定」「プライトンの使用方法」など多岐にわたって行っている。



鍼灸研究会

主な活動

鍼灸関連技術の向上及び研究を目的とし、学年の垣根を越えて、技術向上を図る。

活動内容

- ・鍼灸の技術、知識の向上を目的とし、スキルアップに励む。
- ・学年の垣根を越えて交流し、コミュニケーション力の向上及び医療人としての幅を広げる。



古典同好会

主な活動

古代から近代の東西の医学について、歴史や文献に触れながら伝統医療の魅力を再発見する。

活動内容

古代から近代にかけての東西の医学について、歴史や文献に触れながら、伝統医療の魅力を再発見する事を目的に古典の文献の読み解きやフィールドワークとして実地調査等を通じて、現代の治療法や医療に対する考え方の共通点相違点を学ぶ活動を行っている。



JMC 研灸部～お灸男子 & 女子の会～

主な活動

お灸によるセルフケアの研究及び情報発信。

活動内容

各自で毎月足三里(男子)三陰交(女子)にお灸を行い健康増進を図る。
疾患毎に施灸部位を定め、お灸の効果を検証する。効果のあるお灸に関して積極的に情報発信しお灸の普及に努める。



柔道同好会

主な活動

埼玉接骨師会柔道大会と全国大会に向けての練習。

活動内容

- ・基礎トレーニング・柔道
- ・年に数回大会に出場し入賞目指して頑張ってます。



KART (マラソン同好会)

主な活動

学校近辺のランニング。

活動内容 ランニング・ランニング後の鍼やマッサージ等の治療



body produce& 禅

主な活動

基礎体力の向上

活動内容 少林寺拳法による健康的な体作り



平成 27 年度 事業報告

月 日	摘 要	内 容
平成 27 年		
4 月 2 日	入学式出席	福島会長
	会員名簿作成	新規会員 164 名、総会員数 1,091 名
	定期総会・同窓会のお知らせ	570 通
4 月 26 日	理事会の開催・会計監査	平成 27 年度理事の選任 平成 27 年度事業計画
5 月 17 日	定期総会・同窓会実行委員会	定期総会実施要項の確認
6 月 7 日	定期総会の開催	平成 26 年度事業報告・会計報告 平成 27 年度事業計画・予算
	第 3 回同窓会の開催	定期総会卒業生 23 名、在校生 11 名 同窓会卒業生 101 名、在校生 11 名参加
8 月 4 日	全国柔道整復学校協会柔道大会	大会用柔道着寄贈、壮行会の開催 s
10 月 16 日	呉竹医学会協賛（大宮校開催）	福島会長、抄録の印刷
10 月 18 日	呉竹祭の開催	来場者 313 名、クラスイベント 20 クラス チャリティー募金 41,202 円 鍼灸体験
	理事会の開催	会報の発刊、公開講座の実施について
11 月 8 日	公開講座の開催（1 回目）	『中医鍼灸・弁証論治をやってみよう』 講師 河原保裕 参加人数 53 名
12 月 6 日	公開講座の開催（2 回目）	『病氣にならない体作り』 講師 竹井真澄 参加人数 68 名
平成 28 年		
1 月 17 日	公開講座の開催（3 回目）	『体表解剖のランドマークからの刺鍼』 講師 長嶺芳文 参加人数 58 名
	理事会の開催	
2 月 7 日	公開講座の開催（4 回目）	『理学療法機器の作用機序と適応』 講師 伊藤超短波（株）参加人数 55 名
	会報の発行 定期総会・同窓会のお知らせ	
3 月 16 日	卒業式出席	福島会長、呉竹会長賞表彰（記念品贈呈 9 名）
3 月 26 日	理事会の開催	平成 28 年度理事の選任 平成 28 年度事業計画・定期総会実施要項

平成 27 年度 決算報告書

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

収入の部

(単位：円)

費 目	予算	決算	増減	備 考
1. 前期繰越金額	20,399,071	20,399,071	0	
2. 会費	4,920,000	4,920,000	0	新入会 187 人
3. 預金利息	4,000	4,355	-355	
収入合計	26,323,071	26,323,426	-355	

支出の部

(単位：円)

費 目	予算	決算	増減	備 考
1. 運営費	720,000	463,826	256,174	
(1) 消耗品費	50,000	0	50,000	
(2) 通信費	200,000	115,581	84,419	会報郵送費他
(3) 印刷費	300,000	285,681	14,319	会報印刷費 2,000 部
(4) 交通費	50,000	62,564	-12,564	会議等交通費
(5) 会議費	100,000	0	100,000	
(6) 雑費	20,000	0	20,000	
2. 活動費	4,280,000	3,210,343	1,069,657	
(1) 総会費	700,000	550,900	149,100	バーティ費用含む
(2) 呉竹祭費	1,200,000	1,019,256	180,744	
(3) 学校行事協賛金	600,000	243,738	356,262	柔道大会
(4) 表彰費	150,000	71,928	78,072	呉竹会賞記念品
(5) 慶弔費	100,000	20,000	80,000	
(6) 学術研究費	350,000	253,609	96,391	医学会抄録負担金
(7) 同好会補助費	180,000	180,000	0	9 同好会
(8) 図書等寄贈費	1,000,000	870,912	129,088	
次期繰越金	21,323,071	22,649,257	-1,326,186	
支出合計	26,323,071	26,323,426	-355	

異動挨拶

事務長 柏崎 勝



大宮校の開校に向けて平成十五年にプロジェクトチームが編成されました。以来、開校に向けた仕事をさせていただき、平成二十一年に開校並びにクリニック開院の日を迎えることができた喜びは忘れ得ない大きな思い出です。経験のない仕事の毎日でしたが、事務長として仕事をさせていただいた七年間は楽しい毎日でした。ご協力を賜りました教職員はじめ学生の皆さんには深く感謝申し上げます。

現在は新設された法人事務局で新たな仕事に取り組んでおります。サラリーマン人生も第四コーナーをすでに回っていますが、転ばないで全力を出し切ってゴールしようと思っております。開校時に目指した地域一番校の目標を忘れずに活躍いただくことをお祈りいたします。

鍼灸科教員 藤田 晶子



平成二十七年年度末日をもちまして、本校附属施設所を退職しました藤田晶子です。本校では開校時よりお世話になっておりました。開校前は、附属施設所のベッドや机、キャビネットの中にも何もなく、真新しいにおいの中で新鮮でワクワクした気持ちを抱いていたことを今も思い出して

ます。

私は姉妹校である東京校を卒業し、その後も東京校附属施設所での研修、更にはご縁をいただき大宮校での職員となり、生粋の呉竹っ子と思っております。

そのような私ですので、退職することにとっても寂しく感じておりますが、あの頃と同じワクワクした気持ちを持ち、新しいチャレンジを目指したいと思っております。

最後になりますが、呉竹学園、在校生や卒業生の皆さま、教職員皆さまのますますのご健勝とご多幸を心より祈念いたしております。皆さま七年間ありがとうございました。

着任挨拶

事務長 権田良則



平成二十八年四月に事務長に着任致しました。遅まきながらご挨拶申し上げます。

呉竹会の皆様には、図書の寄贈、公開講座や同窓会の開催、その他学校行事へのご協力など、日頃より多大なるご支援をいただきまして誠にありがとうございます。

学校ではよりよい職場を在校生に紹介することを使命としております。学校窓口や同窓会等で皆様にお会いしました際には、近況も含めて職場のお話しを伺えましたら幸いです。

鍼灸科教員 福本彩季



平成二十八年四月に入職致しました福本彩季です。入職してまだ日は浅いですが、職員の方々、そして、学生さん

も皆さん素敵な方々でこの呉竹医療専門学校で働けることが大変嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ右も左も分からない状態で、皆様にはたくさんご迷惑をおかけしてしまうと思いますが、一日も早く仕事を覚えられよう精進してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。

事務員 千葉美里



呉竹会の皆さま初めまして。平成二十八年四月から事務で勤務しています千葉美里です。

前職では保育士をしていました。人間形成の基礎となる幼児期に関わり、私自身が大切にしてきたことと、呉竹学園の「知識や技術の修得に重ね合わせて人間教育にも力を注いでいる」という言葉に共感を抱き、ご縁があり呉竹医療専門学校で勤務させていただいております。事務の仕事は未経験のため至らないこと

もあるかと存じますが、鋭意努力していきますのでどうぞよろしく願いたします。

編集後記

先日には春一番が吹いたもののまだまだ寒さを残す二月の末日、編集を終えるこの文章を執筆しております。本紙が皆様のお手元に届く頃には春の暖かさが感じられる陽気になっていることと思います。

本会報紙も今回で第四号となり、皆様のご協力により次第に紙面も賑わってまいりました。今回は特に、多くの反響を頂いております卒業生取材を大きく取り扱いましたが、いかがだったでしょうか。

まだまだ皆様のお声を載せ切れているとは言えず、今後一層の紙面の充実を目指し、会員の皆様に有意義な情報をお届けできるよう努めて参りたいと思いますので、今後とも温かい目でおつきあい頂ければ幸いです。

最後になりましたが、「くれたけ」の発刊にあたりまして、多くの会員・関係者の皆様にご協力頂きましたこと、あらためて御礼申し上げます。

事務 柳田明彦

発行所 呉竹医療専門学校 呉竹会

〒 330-0854

埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-185-1

電話：048-658-0001 FAX：048-658-0005

URL：<http://www.kuretake.ac.jp/>

《編集委員》

中野清治、佐藤大介、畠山博式、山口嘉、武井良之、

権田良則、柳田明彦